

CONTENTS	● 第25回NAMMビジネスツアー報告	1～4
	● 普及委員会 MIDI検定試験実施結果報告	5
	● AMEI会員名簿・令和7年度MIDI検定告知・SysExID会員募集	6

第25回NAMMビジネスツアー報告



今年の NAMM SHOW の展示会は、2025 年 1 月 23 日～1 月 25 日の期間で、米国カリフォルニア州アナハイム・コンベンションセンターにて開催されました。NAMM の発表では、今回の入場登録者数は、63,000 人、総出展者数 1850 社を超えました。昨年に引き続きの実施となりました MIDI 規格委員会主催の第 25 回 NAMM ビジネスツアーは、米国の物価高と為替レートの円安という厳しい環境下での実施となりましたが、5 名の参加を得て、1 月 22 日成田出発～1 月 26 日以降の帰国のスケジュールにて、無事実施することができました。ツアー参加者の皆様、お疲れ様でした。

NAMM 2025 ツアー報告

MIDI 規格委員会 委員長 三浦 大輔

今年度も2025年1月22日から1月27日の日程でNAMM ツアー（会場：米国アナハイムコンベンションセンター）が行われました。ツアーにはAMEI事務局の下山さんが同行され、トラブルなくNAMM ツアーを終え、全員無事に帰国することができました。私個人としての目的としては、The MIDI Association (TMA) 主催の各種イベントへの見学のほか、AMEIの活動についてプレゼンをすることで、こちらも無事完遂することができました。その他、TMA 関係者との打ち合わせを実施、今後のMIDI2.0 規格策定、市場への展開に向けて、TMA メンバーとより強い結びつきを構築することができました。

長いフライトの後、初日の夜はツアーの成功を祈るため、そしてNAMM 見学の英気を養うため、昨年も訪問したステーキハウス（Tony Roma's）にてツアー参加メンバーで食事会を行いました。食事をしながら、各々自社のことから楽器業界や将来の電子楽器の世界について語りました。普段は社内のメンバーと話す機会しかない方が多いと思いますが、同じ楽器業界各社の方々と異国の地で食事をしながら意見交換できるのは、このツアーの大きなメリットです。もっと多くの方々に参加頂ければと思います。



翌日1月23日からNAMM ショーがスタート。チケットを入手するために朝からチケットセンターに長い列ができており、新しい楽器への期待に満ち溢れていると感じました。我々は事前にTMA に依頼し、TMA の“Exhibitor”バッジを手配しました。通常、入場の際は荷物チェックが行われるのですが、“Exhibitor”バッジのおかげでスムーズに入場できました。また、各展示ブースの見学では、MIDI Associationのメンバーであること、MIDIの調査をしている旨を伝えると、説明員からより詳しくお話を聞くことができることもメリットです。

各メーカーの新商品を直に触って体験することや、説明員と直に会話して様々な情報を得ることができるのがNAMMの醍醐味ではありますが、MIDI規格委員会としてはTMAのブースの見学、MIDI関連イベントへの参加が目的の一つです。昨年と同様に今回のTMAのブースは、TMAメンバー企業による様々な展示の他、MIDI 2.0に関するイベント、セミナーを行うためのプレゼン会場が設けられており、学生ボランティアにより運営されています。

会場にはAMEIやTMAメンバーだけではなく、NAMM来場者も入ることができ、セミナーでは発行済みのMIDI 2.0各種規格の説明のほか、現在策定中の規格の紹介、実際に動作するプロトタイプを使ってデモンストレーションするなど内容の濃いセミナーばかりでした。参加者からの専門的な質問、自身もTMAに参加したいと言った声もあり、MIDI 2.0への期待感を肌で感じることができました。



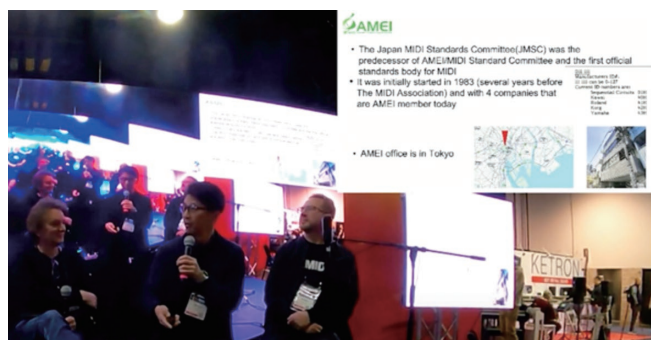
さて、AMEIに関連したイベントについて2点ほど紹介します。TMA 初日の最初のセッション「MIDI Lifetime Achievement Awards 2025」ではMIDI規格制定に貢献された方々に対し表彰式が行われました。

日本からは菊本忠男さん（元ローランド）、西元哲夫さん（元ヤマハ）、故・平野勝彦さん（元コルグ/ヤマハ）が表彰されました。それぞれ関連のあるメンバーが代理でトロフィーを受領し、私は西元哲夫さんの代理として受け取りました。MIDI規格の成り立ち、歴史が語られ、そして楽器業界のレジェンドの方々のご貢献によりMIDIというグローバルな規格が作られたということを改めて認知できた、素晴らしいイベントでした。

もう一つは、最終日に行われた「MIDI Association Open Meeting At NAMM 2025」セッションにAMEI代表として私

も登壇し、AMEI、MIDI規格委員会の役割、TMAとの連携によりMIDIの規格を制定していることをプレゼンしました。TMAの主要メンバーと登壇したため、お互いが対等で密な関係で連携していることもアピールすることができました。このようなイベントへの参加を通し、個人的にも非常に充実したNAMMツアーとすることができたと感じています。

毎回このNAMMツアーで感じるのですが、TMAは着実にNAMM会場でのブース規模を広げ、MIDI 2.0規格、MIDI 2.0製品を広くプロモーションしています。また、MIDI 2.0規格の市場への早急な展開を課題とし、NAMMに限らず、様々な楽器、音楽関連イベントにも積極的に参加してMIDI 2.0アピールしています。AMEIとしてもTMAと歩調を合わせ、MIDI 2.0の市場への展開を目標に、MIDI規格委員会、MIDI 2.0部会の活動を推進していきます。引き続き、TMAメンバーとは情報共有だけでなく対面での議論を行うなど、MIDI規格団体として双方でMIDI 2.0を推進してまいります。これからも、AMEIの活動のご支援を宜しくお願い致します。



NAMMツアー参加レポート

今年のAMEIツアーは、昨年より1日少ない4泊の日程でしたが、帰国日を変更して弊社グループ会社も合わせて訪問する日程にしました。フライトとNAMM期間中のホテル、NAMM会場までのバスはAMEIツアーで手配してくれたのと、帰国便の変更も気軽に対応していただけたのは非常に助かりました。フライトは例年通り成田発着のシンガポール航空、ホテルはNAMM会場から徒歩15分程度の場所にあるBest Western Plus Stroval's Inn。実は出張前から体調不良の状態が続いていましたがフライトもホテルも良かったので滞在中に体調もすっかり良くなりました。

私は初めてのNAMM出張でしたが、主な目的の1つはMAの取り組みに触れ、MAメンバーとのつながりを作ることでした。私は電子ドラムのソフトウェア開発を担当しており、MIDI2.0 Drum Profileの協議に関わらせていただいております。Drum Profileを協議しているメンバーを知ること、MIDI2.0規格に関わる各種Working Groupの参加メンバーや進捗状況、考え方を学ぶことが自分自身にとってDrum Profileの協議に関わるうえで必要と感じていました。実際にMAブースでは3日間にわたって様々な分野の状況紹介が行われました。それぞれの分野の紹介を見て主要メンバーを知り、状況を直接聞くことでリアルな情報と空気感を知ることができました。また主要なメンバーとは直接話をするので、今後のDrum Profile協議においてもより近い距離で会話ができる関係を築けたと思います。NAMMの入場バッジもMAメンバーとして手配されていたのでMAブースには入り浸りやすかった気がします。

NAMM入場バッジはExhibitorsで手配していただけたので一般公開前日に会場全体を見て周り規模感を確認し、メディア向けのイベントを見ることができました。メディア向けイベントでは世界の名だたる楽器メーカーのトップレベルの人達が次々と登壇

ローランド株式会社 木村 俊治

していて、世界中から有力者が一同に集まる場所であるということを知ることができました。一般公開日にフロアをまわると、新製品だけでなく、すでに知ってる製品、全く知らなかった新しいメーカーや製品など発見が本当に多く、イベントも含めてすべてを見て回ったとしても3日では足りないという感覚でした。製品情報を調べたり実際に購入したりすることで様々な情報を知ることができますが、NAMM会場ではそれらの製品に関わっている人達と直接会話することができます。会話をするだけでしか得ることのできない情報も聞くことができました。打合せも世界中オンラインでいつでもできるようになりましたが、直接人と会うことの重要性を改めて感じる良い機会となりました。NAMMは出会いの機会が多くあります。楽器業界にいる人は直接の出会いのために是非NAMMに参加することをお勧めします。



NAMM Show 2025 ビジネスツアー報告

株式会社河合楽器製作所 電子楽器事業部 古澤 尚弥

今回、AMEIのビジネスツアーを利用しNAMMショーに参加しました。ツアーではホテルや航空券の予約といった手続きを請け負っていただいたので、私個人は弊社の出展準備に専念することができました。また、現地では基本的に自由行動だったので、展示解説員を担当したり視察でも見たいものが見られたりと制約なく思い通りに動けました。弊社から今年のツアーを利用したのは私のみですが、来年以降は同僚にも是非お勧めしたいし、もし機会があれば私もまた活用したいと思えるようなツアーでした。

NAMMのショーフロアや展示は今年3日間オープンされました。1日目は主に展示の説明担当者としてブースに立ち会いました。弊社からは様々な出展がありましたが、私が携わったのはMODARTT社と河合楽器製作所のコラボレーション企画展示です。体験してもらった方々のほとんどに好評で、準備してきた全てが報われたと思います。また、立ち寄っていただいた中でも法人の方が多く、先輩社員の会議スケジュールがどんどん増えるのを見て、NAMMが会社対会社の場であることも体感しました。

2日目はACC Northを、3日目はExhibit Hallをメインにそれぞれ見てまわりました。電子楽器やピアノ製品に限らず、日ごろ目にしないようなブースにもたくさん顔を出そうと考えていました。そのおかげで、普段DTMでよく使用しているプラグインの開発者/担当者にお会いすることができたのは、今回のツアーでも個人的に特に印象的だったエピソードの一つです。展示の傾向だと、プラグイン系のブースでは特に音楽制作用途などに、AIを利用したソフトが多くあった印象です。他にもバナナを使ったシンセサイザーといった面白い展示や、今では当たり前の発想かもしれないですが、過去の名機をシミュレートしたという製品もありました。ですがそういった人々の気を引くような製品を企画するような水平思考力こそが、現在求められていることなのかもしれません。

前々から聞かされていたことではありますが、NAMMは会場が広いだけでなく展示数も規格外なのでとてもじゃないですが2日間で全てを見てまわれませんでした。それでもなお、NAMMの公式アプリ等を活用してブースにあたりをつけたり、優先順位を決めておいたりしたことが焦らずに視察できた要因だと思います。私自身この業界に身を置いて歴が浅いということもあり、聞いたことのないようなメーカーや製品が多数ありましたが、むしろ普段触れることのない技術や文化に触れたことで知見を広げられ、非常に有意義な経験であったと感じています。

このビジネスツアーではAMEI関係者の方々だけでなく、展示を通して社内外問わず多くの人々のお話が聞けました。自分のデスクだけで作業しているどうしても視野が狭まり孤独感を感じてしまうこともあるのですが、NAMMを経験して音楽にかかわる方たちと繋がり彼らの熱量を肌で感じることで、自分もこの一体感の中で働いているのだと実感できました。私にとって初めてのNAMMとなりましたが、モチベーションが向上しとても充実した5日間になりました。改めてお世話になったAMEIの関係者、ツアー参加者の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。



▲ KAWAI ブースで説明する様子（右が古澤）

NAMM 2025 ツアーに参加して

ヤマハ株式会社 黒坂 友亮

私は、電子楽器の外装・機構設計を担当しております。楽器演奏を趣味としており、いつかはNAMMショーに参加して世界各国のメーカーの楽器を見てみたいと、以前より思っておりました。今回は、AMEIツアーにてNAMMショーへ初参加させていただくことができました。ショー参加における交通手段や宿泊先などを、すべてツアーに手配いただけて、トラブルなく出張を終えることができました。出張期間中は、共にツアーに参加されたAMEIメンバーと、NAMMだけでなく楽器業界全体の情報交換などができ、私にとって貴重な経験となりました。ツアーを企画いただき、参加させていただけたこと、誠にありがとうございました。

会場では、電子楽器はもちろんのこと、ギターやドラムなど様々な楽器を見て触れることができ、各楽器ブースの活気や雰囲気の違いを肌で感じることができました。特に印象的だったのは、各楽器を好むユーザー層の違いで、音楽や楽器が、文化や生活に深く根付いているということを感じることができました。

外装・機構の視点では、既存技術に磨きをかけ独自の強みを打ち出している製品や、デザイン面で他社と差別化をはかっている製品などが見受けられました。楽器市場としては、行き詰まりかけている印象があったものの、他社に秀でた技術や強みを持つ製品やそのブースには、常に人が溢れ活気に満ちている印象を受けました。中国メーカーの成長や市場参入が凄まじい中、技術を追求し、他社を凌駕する強みへと成長させることの重要性を実感しました。

スマートフォンやタブレットの普及が、強く電子楽器業界に影響していることも感じられました。タブレットとミニ鍵盤を使用した教育システムや、スマートフォンを楽器に変えるデバイスなど、10年前には無かったであろう製品が次々と誕生し、市場への普及が進んでいました。デザインや技術の流行にいかに対応できるかは、海外メー

カーの方が一歩も二歩も上手に感じられました。流行は廃れうるものですが、ユーザーに確かな価値があると感じられたものは、新たなカテゴリとして確立されていくものであり、新たなカテゴリへの挑戦という点で、海外メーカーの勢いに危機感を覚えました。

会場を散策する中で、各社のブースデザインにも興味をそそられました。ブース内の動線や照明などによる雰囲気作りには工夫を凝らし、そのメーカーが提供する音楽体験をユーザーに強く印象付けるブースがありました。そのようなブースでは、まるで自分がその楽器を買って演奏しているかのような高揚感を感じました。

NAMMショーに参加させていただき、楽器ファンとしてただただ楽しい時間を過ごすことができました。可能であればもう2日くらい見て回りたかったくらいでした。次回また機会があれば、是非AMEIツアーにてNAMMショーに参加させていただこうと思います。



MIDI 検定試験実施結果報告

MIDI 検定指導研究委員会 上杉 尚史

MIDI 検定担当の上杉です。

令和 6 年度も例年通り MIDI 検定試験が終了し、無事に 4 月を迎えることが出来ました。4 級指導者講習会に始まり、3 級指導者講習会、1 級試験、2 級指導者講習会、2 級 1 次および 3 級筆記試験、2 級 2 次試験という流れで年間を通した活動を行っております。MIDI 検定 3 級試験にいたっては令和 6 年度が 27 回目の開催となり、もう少しで 30 周年を迎えようとしております。私自身も MIDI 検定立ち上げから関わらせていただいております、まさか 30 年近く継続するとは思ってもみませんでした。これも MIDI という規格が構造的に優れており、普遍的な演奏情報伝達規格であったことによるのでは無いかと実感しております。

昔話は 30 周年の時（あればの話ですが・・・）にでもするとして、本年度のご報告をさせていただきたいと思います。

今年は一昨年発刊した新しいガイドブック「ミュージッククリエイターハンドブック 2023 年改訂版」に完全移行した形で試験を実施した最初の年でもあり、名称、規格など、筆記試験の問題内容を大きく変更しての実施となりました。昨年までは旧ガイドブックに記載の無い MIDI 2.0 の概要に関する設問や、USB-C といった現在では当たり前で使用されているコネクタに関する設問が出せなかったのですが、令和 6 年度からそういった問題も出題することができるようになっています。

また、オンライン試験も定着してきており、指導者講習会に関してはオンラインのみの実施になっています。根本的には大きなトラブルは無いのですが、使用しているオンラインミーティングアプリや、共有ファイルサーバーの UI が刷新されると、受験マニュアルに記載されているものと表示が違うといったトラブルもいくつかあります。ただ、MIDI というデータの性格上オンラインとの相性も良く、コロナ禍から上手くシフトできたのではないかと個人的には感じております。

MIDI 検定受検者の近年の傾向としては MIDI データを数値（イベントリスト）で確認せずに受験に挑む人が増えたという実感があります。若者に普及している某 DAW にイベントリスト機能が無いというのも一つの要因かもしれないのですが、グラフィックウィンドウで入力したまま数値では確認しないという層が増えています。実際のところペンシルツールでコントロールチェンジやピッチベンドを入力すると、2 点間を補完するデータが自動的に入力される機能が搭載されている DAW も多く、そのおかげで 2 級 2 次試験の課題曲制作において大幅な減点をされているケースも少なくはありません。

検定ではこういった入力のお作法的なことまで注意事項として記載したりしているのですが、「文字は読まない・・・」というのもここ最近の傾向です。

ドラムトラックのゲートタイム（音の長さ）は分解能、四分音符＝480tick のときの 10tick に揃えてください・・・と書いても結構な確率で守られていなかったり、試験用のデータ表に記載されているボリュームなどの数値が異なって入力されていたり・・・機械的に出来る単純作業に弱い人材が増えているのかもしれません。もちろん単純作業を強いる検定では無いのですが、音楽データ制作の最後の砦になれる人材を・・・という観点では、この手の単純作業のクオリティーもある程度必要なのではないでしょうか？

とは言え、まもなく 30 年を迎えようとする MIDI 検定も、AI 時代の新たな戦略が必要な時期にきています。MIDI 2.0 の内容も含めて業界内に役立つ人材の育成という面にフォーカスして更なる戦略を模索していきます。



令和6年能登半島地震により被災された皆様に、
謹んでお見舞い申し上げますと共に、
1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2025年5月1日現在

あ	・ 株式会社シンクパワー	や
・ AlphaTheta 株式会社	す	・ ヤマハ株式会社
い	・ 株式会社ズーム	・ 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメント
・ 株式会社インターネット	・ 株式会社鈴木楽器製作所	ホールディングス
え	た	ろ
・ 株式会社エクシング	・ 株式会社第一興商	・ ローランド株式会社
か	て	〈正会員会社 22 社〉
・ カシオ計算機株式会社	・ ティアック株式会社	
・ 株式会社河合楽器製作所	な	* 賛助会員
く	・ 株式会社 nana music	・ 中音公司 (中華人民共和国)
・ クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	に	・ 株式会社博秀工芸
・ クリムソンテクノロジー株式会社	・ 一般社団法人日本シンセサイザープロフェッショ	・ 株式会社ミュージックトレード社
こ	ナルアーツ	・ 株式会社リットーミュージック
・ 株式会社コルグ	は	〈賛助会員会社 4 社〉
し	・ バイオニア株式会社	
・ 株式会社シーミュージック	ふ	
・ 学校法人尚美学園	・ 株式会社フェイス	



MIDI検定試験

1級試験	2025-8/8(金)~8/18(月)
3級試験	2025-12/7(日)
2級1次(筆記)	2025-12/7(日)
2級2次試験	2025-2/14(土)~2/16(月)

指導者認定講座

4級指導者認定講座	2025-6/1(日)
3級指導者認定講座	2025-7/27(日)
2級指導者認定講座	2025-9/28(日)



AMEI NEWS Vol.85 / 2025.5.7
一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌
発行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局
〒101-0061
東京都千代田区神田三崎町 2-16-9 イトービル 4F
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549
発行人：水野 滋
編集人：石黒士郎(広報委員会)
編集協力：株式会社 博秀工芸
ホームページアドレス：
<http://www.amei.or.jp/>